

九州大学百年史 第1巻 : 通史編 I

九州大学百年史編集委員会

<https://doi.org/10.15017/1801084>

出版情報 : 九州大学百年史. 1, 2017-03-31. Kyushu University
バージョン :
権利関係 :

九州大学百年史 第1巻 通史編Ⅰ 目次

序

凡例

第1編 創立前史

第1章 賛生館から県立福岡病院へ	3
第1節 賛生館	3
(1) 賛生館	3
福岡藩における西洋近代医学の受容 賛生館の設立 賛生館の廃校	
(2) 修猷館内診察所	8
(3) 福岡医院	9
福岡医院の開院 福岡医院の医学教育	
第2節 福岡医学校	11
(1) 福岡医学校の設立	11
福岡医学校設立案 福岡医学校の設立	
(2) 福岡医学校の体制・教育	14
福岡医学校の体制づくり 福岡医学校開校式 福岡医学校の職制と教員 福岡医学校の教育 生徒数等の動向 附属病院 薬舗学科 福陵医会	
第3節 福岡甲種医学校	22
(1) 甲種医学校認可	22
「医学校通則」の制定 福岡医学校の甲種医学校認可	
(2) 福岡甲種医学校の教育	26
福岡甲種医学校の教育 福岡甲種医学校の教員 生徒	

(3) 附属病院と薬学校	33
附属病院 福岡乙種薬学校	
第4節 県立福岡病院	37
(1) 福岡医学校の廃止	37
福岡県会の医学校廃止論 医学校をめぐる攻防 福岡医学校の廃止	
(2) 県立福岡病院の開院	43
県立福岡病院の開院 診療科とスタッフ 薬局・薬剤部と病理部・管理部 地域医療への貢献	
(3) 医学士巡回と玄洋医会の結成	53
福岡病院医学士の巡回 玄洋医会の結成 玄洋医会の活動	
(4) 病院の新築・移転	62
新築・移転の計画 新病院の設計 病院の新築・移転 看護婦・産婆の養成	
第2章 京都帝国大学福岡医科大学	71
第1節 九州大学設置問題	71
(1) 日清戦争前後の高等教育の拡充と文部省「八年計画」	71
高等教育拡充をめぐる議論 文部省「八年計画」	
(2) 福岡県の誘致運動	76
隈本有尚の誘致運動提議 「九州大学設立ノ位置ハ福岡県最好適地タルノ説明書」 福岡県教育会の誘致運動 福岡県会の誘致建議 県立福岡病院と誘致運動	
(3) 熊本県・長崎県の誘致運動	84
熊本県の誘致運動 長崎県の誘致運動	
第2節 福岡医科大学設置運動	89
(1) 九州東北帝国大学設置建議案	89

第 14 回帝国議会	九州医科大学設置の決定	
(2)	誘致運動の激化	97
	福岡県の誘致運動激化	
	長崎県の撤退と熊本県の誘致運動激化	
(3)	福岡医科大学設置の決定	104
	福岡設置の決定	
	名称をめぐる議論	
第 3 節	京都帝国大学福岡医科大学の創設	112
(1)	福岡医科大学の創設	112
	福岡医科大学への期待と批判	
	医科大学創設準備	
	京都帝国大学	
	福岡医科大学の創設	
(2)	福岡医科大学の整備	116
	講座の設置	
	学長委任条件	
	教官の配置	
	施設の整備	
	諸規則の制定	
	附属医院の整備	
	附属医院の診療	
	附属医院の「悪評」	
	看護婦養成科	
第 4 節	京都帝国大学福岡医科大学の発展	128
(1)	福岡医科大学の学生生活	128
	1 期生の入学	
	「告白」	
	入学者の動向	
	福岡医科大学の学生生活	
	学友会の設立	
	『福岡医科大学雑誌』の創刊	
	木曜会	
	第 1 回卒業式	
(2)	学風の形成	140
	日露戦争と福岡医科大学	
	福岡医科大学集談会	
	福岡医科大学の学風	

第 2 編 九州帝国大学の創立

第 1 章	九州帝国大学創立への動き	147
第 1 節	工科大学設置問題	147
(1)	帝国大学増設問題	147

帝国大学増設問題	古河家の建築費寄付	
(2)	工科大学設置運動と敷地の決定	151
	福岡県および福岡市による寄付	工科大学設置運動と箱崎町への誘致決定
	工科大学の敷地買収反対運動と土地収用法の適用	
第2節	工科大学官制の公布	155
(1)	創立準備委員会の設置と教授内定者の留学	155
(2)	九州帝国大学工科大学官制の公布	156
	帝国大学令の改正	九州帝国大学工科大学官制の公布と工科大学事務の開始
第2章	九州帝国大学の創立	159
第1節	九州帝国大学の創立	159
(1)	九州帝国大学の創立	159
	帝国大学特別会計法の問題点	帝国大学特別会計法の改正
(2)	九州帝国大学官制公布と諸規則の制定	163
	九州帝国大学官制の公布	九州帝国大学通則の制定
(3)	山川総長の着任	168
	山川健次郎の総長着任	各訓示の内容
第2節	九州帝国大学の整備	172
(1)	工科大学の校舎整備	172
	校舎の火災	校舎の再建と整備
(2)	工科大学の授業開始	174
	工科大学への教授の着任	工科大学の講座設置状況
	入試・入学生の状況	授業の開始
第3編	九州帝国大学の拡充	
第1章	大学制度の改革	183

第1節 大学令の公布	183
(1) 教育制度の改革	183
(2) 大学令の公布	185
大学令・帝国大学令による制度改革	
学位制度の変遷と新学位令の公布	
第2節 九州帝国大学の制度改革	191
(1) 官制・通則の改正	191
(2) 学部規程の改正	193
医学部規程の改正	
工学部規程の改正	
(3) 学位規程の制定	195
学位規程の制定	
九州帝国大学最初の博士号授与	
(4) 卒業式の廃止と4月入学制	197
(5) 総長互選制の実施	199
総長選内規の制定	
第1回総長選挙	
(6) 名誉教授と停年制	201
教授定年限年令制内規の制定	
名誉教授制度の整備	
第2章 農学部の創設	204
第1節 農科大学設置運動	204
(1) 農科大学設置の提唱	204
第1次世界大戦と高等教育の拡張	
農科大学設置論	
(2) 農科大学設置運動	206
福岡県の農科大学設置運動	
九州各県の農科大学設置運動	
(3) 農科大学設置の決定	208
創立費予算の計上	
農科大学設置の決定	
第2節 農学部の創設	211
(1) 農学部の創設準備	211

創立委員 敷地の決定 教授予定者の留学	
(2) 農学部 of 創設	214
農学部 of 創設 農学部事務 of 開始 校舎 of 建築	
(3) 農学部 of 授業開始	217
入学試験 農学部 of 授業開始 門戸開放	
(4) 農学部 of 整備	221
学科・講座 of 設置 研究会と紀要 農学部開学式と第1回卒業生	
第3節 演習林と農場	224
(1) 演習林	224
演習林 of 設置 朝鮮(南鮮)演習林 台湾演習林 樺太演習林 北鮮演習林 早良演習林 粕屋演習林 宮崎演習林 演習林 整理問題 大学財政と演習林 地域社会と演習林	
(2) 農場	237
附属農場 of 設置 地域社会と農場	
第3章 法文学部 of 創設	240
第1節 法文学部 of 創設の経緯	240
(1) 高等教育 of 拡張	240
原敬内閣の「高等諸学校創設及拡張計画大要」 法学部から法文学部設置へ	
(2) 法文学部 of 構想	244
東北帝大と九州帝大 of 法文学部構想 美濃部達吉 of 法文学部構想 of 特徴	
第2節 法文学部 of 創設	249
(1) 法文学部 of 創設	249
幻 of 哲学科構想 法文学部 of 創設 法文学部 of 開学	
(2) 法文学部 of 教育	254

法文学部の授業 法文学部の講座担当教官の陣容 法文学部の教育の特徴

第3節 女子学生の入学 ……………260

(1) 帝国大学における男女共学問題 ……………260

女性に閉ざされた大学教育 東北帝大の女子入学許可 東北大門
戸開放の意義と評価

(2) 九州大学への女子学生入学 ……………263

女性への門戸開放機運の高まり 工学部女子聴講生受け入れ問題
法文学部の女子正科入学許可 九大初の女子学生入学 女子入学者の増加・定着

第4節 法文学部の内紛 ……………271

(1) 内紛事件の発生とその推移 ……………271

木村亀二教授不信任決議 刑事訴訟法嘱託講師人事を巡る混乱
木村派・反木村派の対立激化

(2) 総長の介入による処分の決定 ……………276

休職処分発動と関係者の反応 処分を左右した東大法学部長の意向
東・瀧川両教授の復職問題

(3) 内紛の影響と根本的原因 ……………280

法科空洞化の危機と教官人事充足の進展 美濃部学部長招致計画と
その頓挫 紛争の遠因と美濃部の責任

第4章 附属図書館の設置 ……………285

第1節 附属図書館の設置 ……………285

(1) 附属図書館の設置 ……………285

(2) 附属図書館の開館 ……………288

第2節 第八臨時教員養成所 ……………291

(1) 第八臨時教員養成所の附設 ……………291

(2) 第八臨時教員養成所の学制と学生	294
第5章 工学部・医学部等の拡充	298
第1節 工学部の拡充	298
(1) 工学部の拡充	298
(2) 工学部本館の建設	301
工学部本館の火災と新館建設への着手 応用化学教室の建設と工学部本館の竣工	
(3) 大学本部の移転	305
医学部の火災と本部の移転 天皇ほか皇族の来学	
第2節 医学部の拡充	308
(1) 特診事件	308
特診事件 特診事件の影響	
(2) 医学部の火災と復興	312
医学部の火災 火災からの復興	
(3) 医学部創立25周年	315
医学部創立25周年記念事業 九皋会の結成	
第3節 天草臨海実験所等の設置	318
(1) 天草臨海実験所	318
臨海実験所候補地の決定 天草臨海実験所の設置と地域教育活動への貢献 新実験室の落成	
(2) 九州文化史研究所	323
(3) 彦山生物学研究所	325
第4節 温泉治療学研究所の設置	329
(1) 温泉治療学研究所の構想	329
概算要求書の提出 温泉治療学研究所創設の準備	
(2) 温泉治療学研究所の設置	333

放射線治療学講座の開設と診療の状況 温泉治療学研究所の整備と
充実

第6章 大正・昭和初期の学生生活と学生運動	338
第1節 学友会の創立	338
(1) 運動会の設立	338
運動会の設立 運動会規則の制定 運動会の活動	
(2) 学友会の創立	340
運動会から学友会へ 学友会解散要求	
(3) 運動会・学友会各部の活動	346
端艇部・ヨット部 野球部 庭球部 文芸部 仏教青年会	
第2節 『九州大学新聞』の創刊	356
(1) 法文会の結成	356
法文会の結成 共済部 学芸部 体育部 部長制の導入	
(2) 『九州大学新聞』『法文論叢』の創刊	362
『九州大学新聞』の創刊 全学的新聞への脱皮 「全日本学生新聞 聞聯盟」の提唱 『九州大学新聞』の変容 『九州帝国大学新聞』 への改題 『法文論叢』の創刊 『法文論叢』と「大衆化」	
第3節 大正・昭和初期の学生生活	372
(1) 大学町の形成	372
馬出大学町の形成 箱崎大学町の形成 九州帝国大学と箱崎 福岡市との合併	
(2) 大正・昭和初期の学生生活	381
学生厚生施設 学生生活の諸相	
(3) 昭和初期の生活難・就職難	385
退学者の急増 「生活改善」の要求 下宿問題 就職難	
第4節 学生運動と三・一五事件	392

(1) 学生補導体制	392
福岡医科大学の学生補導体制 大正期の学生補導体制 学生運動 の活発化と昭和初期の学生補導体制	
(2) 大正期の学生運動	394
読書会の結成と福高事件 九大自由擁護同盟期成会 セツルメン トの設立 セツルメント活動の停滞	
(3) 3・15 事件	402
3・15 事件の発生 九大への波及 3 教授の辞職	
(4) 左翼学生運動の弾圧と衰退	406
左翼学生運動団体の排除 3・15 事件後の学生運動 学生消費組 合の設立と解散 左翼学生運動の壊滅 瀧川事件と九州帝国大学	
第 5 節 大正・昭和初期の留学生と国際交流	412
(1) 創立初期の留学生・植民地出身学生	412
福岡医科大学の留学生 九州帝国大学初期の留学生 植民地（外 地）出身学生 留学生・郭開貞（沫若）	
(2) 留学生・外地出身学生の増加	417
対支文化事業 国民革命と中国人留学生 植民地（外地）出身学 生の増加	
(3) 大正・昭和初期の国際交流	422
文部省外国留学生・在外研究員 孫文の来学 アインシュタイン の来学 クローデルの見た九大	

第 4 編 福岡高等学校と久留米高等工業学校

第 1 章 福岡高等学校	431
第 1 節 高等教育の拡充	431
(1) 旧制高等学校	431

東京大学予備門の設立	高等中学校の設立	高等学校の創立	
創立期の高等学校			
(2) 第1次世界大戦後の高等教育の拡充			436
教育の拡充	高等中学校令の制定	第2次高等学校令の制定	
高等学校の増設			
第2節 福岡高等学校の創立			441
(1) 福岡高等学校創立運動			441
創立運動の開始	各地の高校創立運動	地域間競争の激化	高
等学校の増設開始	福岡高校の創立決定		
(2) 福岡高等学校の創立			448
寄付金問題	敷地選定問題	校舎の建築	校長人事
入試			第1回
第3節 福岡高等学校の教育と教師			455
(1) 教育方針と進学状況			455
初代校長秋吉音治	集まった生徒たち	卒業生たちの進路	
(2) 教師たち			459
教員の定員とカリキュラム	歴代校長	外国語	文科系科目
理科系科目	その他		
第4節 学而寮と学校生活			466
(1) 学而寮			466
寮の発足とその制度	寮の自治	年中行事	ストームと乱舞
(2) 部活動と学校行事			472
福岡高等学校校友会	各部の活動から	学校対抗戦	運動会
第5節 福岡高等学校の学生運動			476
(1) 社会科学研究会の結成			476
福岡高等学校の学生運動の概況	社会科学研究会の誕生と禁圧		

社会科学研究会の再建と活発化	
(2) 福岡高校事件とその後の学生運動	480
福岡高校事件の発生 事件の処分 事件の反響	
(3) 学生運動の衰退	485
共済会事件 秘密読書会事件 校内ビラ事件・有楽町落書事件	
モップル・ビラ事件 運動衰退のあとに	
第6節 戦時体制下の福岡高等学校	490
(1) 報国団の結成と学徒勤労動員	490
福岡高等学校報国団の結成 報国学而寮の結成 福岡高等学校の	
学徒勤労動員	
(2) 高等学校規程の改正と学徒出陣	495
修業年限の短縮 官立高等学校規程の改正 校務分掌の改正と報	
国団の改組 文科生の定員減と理科生の定員増 学徒出陣	
(3) 南方特別留学生と福岡大空襲	504
南方特別留学生制度 福岡高等学校の南方特別留学生 福岡大空	
襲と福岡高等学校	
第2章 久留米高等工業学校	511
第1節 久留米高等工業学校の創立	511
(1) 官立高等工業学校の増設	511
旧制専門学校 官立高等工業学校の増設	
(2) 久留米市の高等工業学校誘致運動	513
高等工業学校新設方針 福岡県内の高工誘致運動 九州各地・全	
国の高工誘致運動 久留米設置の決定	
(3) 久留米高等工業学校の創立	518
久留米高等工業学校の創立準備 久留米高等工業学校の開校	
(4) 教育と教師	521

教育体制	久留米高等工業学校の教師	
(5)	小森野校舎の建設	524
	旭町仮校舎	小森野校舎の建設
(6)	学校生活	526
	生徒寮	校友会
		1期生の卒業
第2節	久留米工業専門学校への改称と学科再編	528
(1)	学徒勤労働員と報国隊の結成	528
	修業年限の短縮	勤労奉仕作業
		報国団の結成
		報国隊・防護団の結成
		学徒勤労働員
(2)	久留米工業専門学校への改称と学科再編	534
	工業化学科の増設	久留米工業専門学校への改称
		学科の再編
	科学技術員養成所	南方特別留学生

第5編 戦時体制下の九州帝国大学

第1章	理学部の創設と附置研究所・附属諸学校	543
第1節	理学部設置運動	543
(1)	理学部設置の提唱	543
	福岡医科大学と理科大学	工科大学理科教室
(2)	理学部設置運動	545
	「理工学部」案	理学部設置要求
		理学部新設費予算の計上
	福岡県の理学部設置運動	財政難と理学部創設の難航
		満洲事変の勃発と理学部創設問題
(3)	理学部設置の決定	553
	日中戦争の勃発と科学振興政策	理学部設置の決定
第2節	理学部の創設	556
(1)	理学部の創設	556

理学部創設準備	理学部の創設	理学部の授業開始	理学部の講座設置	
(2) 理学部の拡充				560
理学部の設備問題	紀要の発行	理学部開学式	数学科の設置	
第3節 附置研究所の増設				563
(1) 戦時体制期の研究所設置				563
科学振興政策と研究所増設	九州帝国大学の研究所設置要求			
(2) 流体工学研究所				567
(3) 弾性工学研究所				569
(4) 木材研究所				573
(5) 活材工学研究所				575
(6) 熱帯農林研究所				577
第4節 附属諸学校の設置				579
(1) 臨時附属医学専門部				579
設置の経緯	臨時附属医学専門部の設置	施設整備と教官の増員		
学科課程と修業年限				
(2) 福岡臨時教員養成所				587
(3) 附属工業専門部				589
設置要請と寄付申し出	附属工業専門部の設置			
第2章 戦時体制の形成				596
第1節 戦時体制の形成と教育・研究				596
(1) 工学部の拡充				596
航空学科の設置	戦時下工学部の拡充			
(2) 農学部 of 拡充				599
農業工学科等の設置	水産学科の設置			
第2節 人民戦線事件と大学自治問題				604

(1) 人民戦線事件	604
人民戦線事件 高橋正雄の検挙と休職処分 高橋の起訴と有罪判決	
(2) 大学自治問題	607
総長公選制問題 6 帝大の対応 九州帝国大学の答申案 5 帝大案の承認	
第3節 軍事教練	616
(1) 軍事教練の開始	616
大学における軍事教練の開始 九州帝国大学の軍事教練開始 戦跡視察旅行	
(2) 軍事教練の強化	622
軍事教練の強化 強化後の軍事教練	
(3) 軍事教練の必修化	625
軍事教練の必修化 必修化後の軍事教練	
第4節 学校報国隊の結成	628
(1) 興学会の結成	628
新体制運動と大学 興学会の結成 興学会の組織 興学会の活動	
(2) 学校報国隊の結成	633
八・八訓令 報国隊の結成 報国隊の組織 報国隊の奉仕作業 報国隊の修練	
(3) 防護団の結成	639
防護団の結成 防護団の再編 報国隊と防護団 特設防護団の結成	
(4) 防護計画と防護訓練の実施	642
防護計画の策定 防護訓練の実施	

第5節 戦時体制下の学生生活	646
(1) 右翼学生運動の台頭	646
右翼学生運動の台頭 満蒙問題研究会 皇道会の結成と満蒙問題研究会の解散 国綱会の結成	
(2) 戦時体制下の学生生活	649
景気回復と就職状況の好転 食と住の問題 学生生活調査 戦時動員体制と就職 娯楽問題 太平洋戦争下の耐乏生活	
第6節 戦時体制期の留学生と国際交流	660
(1) 満洲事変と留学生	660
満洲事変と中国人留学生 満洲国留学生 中国人学生の急増 帰国後の中国人留学生 満洲事変期の外地出身学生	
(2) 日中戦争・太平洋戦争と留学生	667
日中戦争の勃発と中国人留学生 日中戦争・太平洋戦争期の外地出身学生	
(4) 戦時体制期の国際交流	669
九大教官のアジア研究 外国人の来学 国際交流と国際協力	
第3章 学徒動員・学徒出陣と敗戦	675
第1節 研究動員	675
(1) 科学振興政策と大学	675
(2) 九州帝国大学における科学研究動員	677
九大における科学研究費の配分 科学研究動員委員会の設置 九州帝国大学の要求 九州帝国大学の科学研究動員 科学研究費の配分状況	
(3) 大学院特別研究生	689
第2節 学徒勤労働員	693
(1) 勤労働員の開始	693

集団勤労作業の開始 集団勤労作業の増加 興亜青年勤労報国隊 学生隊 興亜学生勤労報国隊	
(2) 在学年限の短縮	700
在学年限の短縮 勤労働員の強化	
(3) 通年動員	702
通年動員の実施 九州帝国大学の通年動員実施 勤労働員学徒の 待遇 授業停止 女子挺身隊 学徒隊の結成	
第3節 学徒出陣	711
(1) 学徒出陣	711
九州帝国大学関係者の応召 慰霊祭 在学年短縮と「学徒出陣」 徴集猶予の停止 九州帝国大学の出陣学徒壮行会 1943年12月 の「学徒出陣」(一斉入隊) 1943年12月の「学徒出陣」以降の状 況 朝鮮・台湾出身学徒の徴集 九州帝国大学関係戦没者と復学 者	
(2) 法文学部学生の京都帝国大学委託案	748
文科系大学・学部の統合方針 法文学部教授会の委託反対意見書	
第4節 戦局悪化から敗戦へ	751
(1) 疎開	751
(2) 敗戦	756
福岡大空襲 敗戦直後の九州帝国大学 原爆調査	
第4章 敗戦後の九州大学・福岡高等学校・ 久留米工業専門学校	760
第1節 戦後処理の開始	760
(1) 研究所・講座の改廃	760
(2) 附属諸学校の廃止	762
(3) 九州帝国大学から九州大学へ	763

(4) 生体解剖事件の公判	765
(5) 転入学生の受け入れ	767
軍関係学校生徒の転入学 引揚学徒の転入学	
第2節 理学部の久留米移転計画	772
(1) 理学部の施設問題	772
(2) 理学部の久留米移転計画	774
(3) 数学教室の移転と復帰	778
第3節 学内・校内刷新	779
(1) 教員の復帰と追放	779
教員の復帰 不適格教員の追放	
(2) 学内・校内刷新運動	784
法文学部の刷新運動 理学部の刷新運動 工学部の刷新運動	
農学部 of 刷新運動 医学部の刷新運動 医学部刷新運動の影響	
医学部の学部刷新	
(3) 福岡高等学校・久留米工業専門学校の再開	791
第4節 戦後の耐乏生活	792
(1) 食糧問題・住居問題	792
食糧問題 住居問題	
(2) 教職員組合の結成	798
九州大学教職員組合連合会の結成 給与水準闘争	
第5節 戦後初期の学生運動	802
(1) 全学自治委員会の結成	802
全学自治委員会の結成 授業料値上げ反対運動	
(2) 『九州大学新聞』の復刊	805
(3) 大学法問題	807
大学法試案要綱 九州大学の対応 大学法反対運動	

(4) イールズ来学812

イールズ講演 イールズ来学 6. 3 スト

図表一覧